

平成 16 年度

# 事業報告

社会福祉法人 名東福祉会

〒465-0055 愛知県名古屋市名東区勢子坊2-1303

TEL (052) 702-2863

FAX (052) 701-2079

E-mail [m-works@se.starcats.ne.jp](mailto:m-works@se.starcats.ne.jp)

# 目 次

名東福祉会のミッション .....	2
事業機構 .....	3
利用者の状況 .....	5
デイケア事業 .....	10
ナイトケア事業 .....	17
地域生活支援事業 .....	19
各種委員会等 .....	25
地域交流事業 .....	32
施設・事業所一覧	

# 名東福祉会のミッション

## ● 名東福祉会のミッション（使命）

名東福祉会の使命は、東部名古屋地域の知的障害者ケアと、知的障害者ケアに関するあらゆるサービスを提供することを目的とする。

名東福祉会は知的障害者エンパワーメントの理念のもと、名古屋市東部地域において、知的障害者のための継続的ケアを提供し、利用者の自由と自立の実現をめざす。

## ● 福祉サービスの基本的考え方

### （1）生命の安全と健康

- ・命を最優先した福祉サービスを提供する。
- ・利用者が可能な限り健康を維持・増進することができるように支援する。
- ・提供サービスの質を向上させるためにリスクマネジメントを行う。

### （2）自己決定の支援

- ・地域に福祉団体と人の支援ネットワークを形成し、多様なプログラムによって利用者の生活を支える。
- ・生活スタイルを自ら選択することができるように支援する。
- ・利用者とその家族が設定した目標の実現に向けて多角的な支援を行う。
- ・利用者のニーズにあったプログラムの選択が可能なように柔軟な対応を実現する。

### （3）個別エンパワーメント計画（I E P）にもとづいた処遇

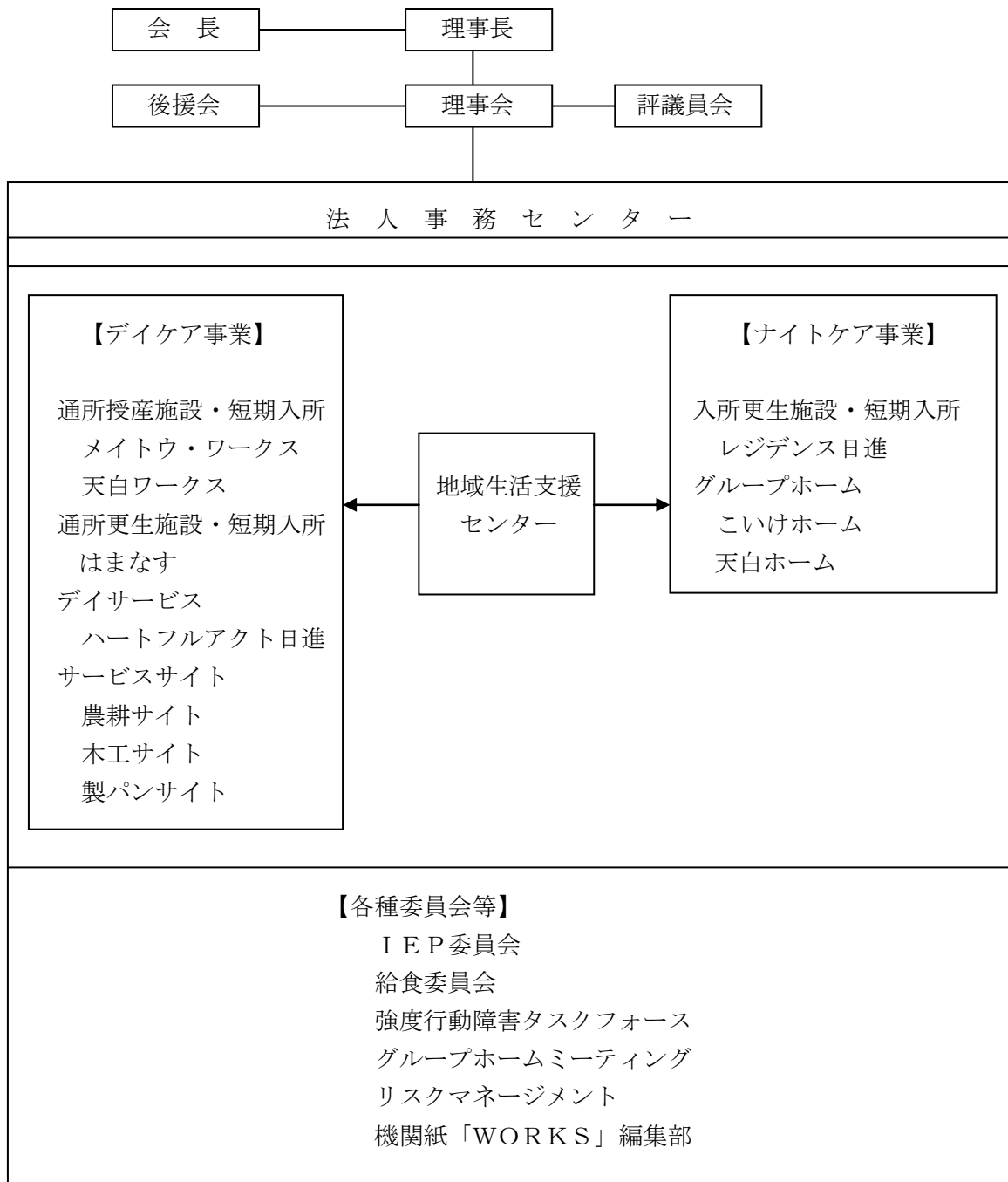
- ・施設の運営方針と利用者のニーズに基づき、ニーズを満たすために必要なI E Pを立案する。
- ・個別福祉サービス計画の立案にあたっては、できる限り利用者本人・利用者の家族または親権者・知的障害者福祉に関わる専門家とともにこれを作成し、提供されるべき個別福祉サービスを決定し、利用者、家族、職員、地域社会相互の満足を実現する。
- ・I E Pによって設定された目標の達成度を常にチェックする。

### （4）提供サービスの妥当性の確保

- ・利用者の権利を護るため自己チェック体制を整える。
- ・利用者とその家族がいつでも正当な権利を行使することができるようにサービスのあり方を常に見直す。
- ・情報公開に努める。

# 事業機構

## 1. 機構図



2. 職員構成（平成 17 年 4 月 1 日 現在・計 64 名）

	理事長	会 長	事務員	所 長	支 援 員 等		コーデ ィネー ター	看護師	栄養士	医 師
					男	女				
法人全体	1	1	4	4	23	26	1	2	1	1
メイトウ・ワークス				1	5	5				(1)
天白ワークス				1	5	7				(1)
はまなす				1	3	3				(1)
レジデンス日進				1	9	11		2	1	(1)
こいけホーム				(1)		1				(1)
天白ホーム				(1)	1					(1)
地域生活支援C				(1)			1			

\* レジデンス日進には、上記の法人職員以外に、派遣職員が支援業務に従事

\* 各サービスサイトには、施設支援員が出向

\* ( ) は兼務

# 利用者の状況

(平成 17 年 4 月 1 日 現在)

名東福社会は現在、200 名以上の利用者の方々に諸事業の利用契約をいただいています。また、地域生活支援センターを設置し、東部名古屋地域の障害をもった方々の生活を支えています。

1. 年齢分布 \* ( ) は重複利用者の再掲

	～19歳		20歳～		25歳～		30歳～		40歳～		50歳～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	2	2	1	4	2	2	12	8	2	1		1	37
天白ワークス	3	4	3	2	2	2	6	4	6	2		1	35
はまなす	1	2	3	3	6	2	4	1	3				25
レジデンス日進	2	1	2	3	6	2	11	6	1	1	1	4	40
こいけホーム								3		1			4
天白ホーム									4				4
法人全体	8	9	9	12	16	8	33	22	16	5	1	6	145
	17		21		24		55 (1)		21 (4)		7		(5)

2. 居住(出身)地分布 \* ( ) は重複利用者の再掲

	名古屋市														計
	名東	千種	守山	天白	昭和	瑞穂	中川	中村	北	東	南	緑	港		
メイトウ・ワークス	22	3	2	1	1	1	1			1					32
天白ワークス	4			17	2		1				2	7			33
はまなす	13	2	1	5	1	1									23
レジデンス日進	3	1	2	8		1	1	1	1		1	3	1		23
こいけホーム	1	1			1							1			4
天白ホーム	1		1	2											4
法人全体	44	7	6	33	5	3	3	1	1	1	3	11	1		119
	(2)		(1)	(2)											(5)

	名古屋市外											計	
	日進	瀬戸	尾張旭	春日井	三好	一宮	江南	愛西	師勝	稲沢			
メイトウ・ワークス	3		1		1								5
天白ワークス	1		1										2
はまなす	1		1										2
レジデンス日進	6	2	1	1		2	2	1	1	1			17
こいけホーム													0
天白ホーム													0
法人全体	11	2	4	1	1	2	2	1	1	1			26

### 3. 障害の程度（支援費制度程度区分）

	A（区分1）		B（区分2）		C		計
	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	11	12	6	6	2		37
天白ワークス	12	12	8	3			35
はまなす	16	7	1	1			25
レジデンス日進	18	12	4	4	1	1	40
こいけホーム		4					4
天白ホーム	2		2				4
法人全体	59	47	21	14	3	1	145
	106		35		4		

### 4. 障害の種別 \*（ ）は重複利用者の再掲

	自閉症		ダウン症		脳性麻痺		知的障害		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	6	3	2	4	1	3	10	8	37
天白ワークス	11	3	2	2			7	10	35
はまなす	11	2	3	2		2	3	2	25
レジデンス日進	15	6		1	1	2	8	7	40
こいけホーム				1				3	4
天白ホーム			1				3		4
法人全体	43	14	8	10	2	7	31	30	145 (5)
	57		18 (1)		9		61 (4)		

	重複障害										計
	肢体		視覚		聴覚		内部		精神		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	2	3				2		1	1		9
天白ワークス	1	2	1		1	1					6
はまなす	1	2		1			1	2			7
レジデンス日進	3	2		1		1		1	3		11
こいけホーム											0
天白ホーム	1		1		1						3
法人全体	8	9	2	2	2	4	1	4	4	0	36
	17		4		6		5		4		



5. 利用期間 \* ( ) は重複利用者の再掲

	～1年		1年～		3年～		5年～		10年～		15年～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	3	2	4	3			2	3	4	3	6	7	37
天白ワークス	3		4	7	1	2	5	2	1	2	6	2	35
はまなす	2	3	1	1		1	4	1	10	2			25
レジデンス日進		1	23	16									40
こいけホーム		1		1		1		1					4
天白ホーム	1				3								4
法人全体	9	7	32	28	4	4	11	7	15	7	12	9	145
	16 (1)		60		8 (4)		18		22		21		(5)

6. 月別平均利用者数 (平成 16 年度)

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス	37	34.2	35.1	31.8	32.8	32.8	33.1
天白ワークス	35	30.3	29.1	28.3	30.2	29.6	30.6
はまなす	30	18.2	17.8	17.5	17.4	18.1	18.3
レジデンス日進	40	32.1	24.9	33.4	28.2	30.3	33.3
こいけホーム	4	2.9	3.0	2.8	3.7	3.8	3.9
天白ホーム	4	2.9	2.2	2.5	3.3	3.1	3.2

10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
32.7	31.6	34.0	33.6	31.2	32.0	32.9	メイトウ・ワークス
28.6	31.7	32.5	32.5	30.0	30.5	30.3	天白ワークス
19.3	19.8	20.1	21	19.4	21.8	19.0	はまなす
33.6	34.2	32.5	29.9	34.1	34.9	31.7	レジデンス日進
3.9	3.6	3.1	3.5	3.6	4.0	3.4	こいけホーム
3.2	3.2	2.8	3.1	3.6	3.7	3.0	天白ホーム

\* はまなすは地域との協定により、9月末まで利用者数を20名以内に制限

7. 通所施設時間延長サービス利用者数 (16:00～17:00・平成 16 年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス	5	1	3	7	6	3
天白ワークス				1	2	
はまなす	1		2		1	
法人全体	6	1	5	8	9	3

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
2	2	2	2	2	4	39	メイトウ・ワークス
		2				5	天白ワークス
2	1	2	1	1	1	12	はまなす
4	3	6	3	3	5	56	法人全体

8. 短期入所事業延利用者数（平成16年度）

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス	3			3	9	7	33
天白ワークス	3						
はまなす	2						
レジデンス日進	4		17	14	46	78	93

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
48	40	22	36	39	61	298	メイトウ・ワークス
5	14	17	9			45	天白ワークス
					21	21	はまなす
117	122	103	76	73	112	851	レジデンス日進

## デイケア事業

名東福祉会は、昭和 57 年にメイトウ・ワークスを開所して以来、質の高い日中プログラムの開発・展開を積み重ねてきました。障害をもった方々に充実したプログラムを選択的に利用していただけるよう、今後も事業展開いたします。

法人資源の相互利用を図り、特に生活施設の利用者の暮らしが限られたものにならないよう留意しています。

## 1. 作業プログラム

### (1) プログラムメニュー

#### ● 陶芸作業（メイトウ・ワークス／天白ワークス）

はし置き、一輪挿し、フリーカップ、お皿など生活を彩る陶器を製作。土に触れる段階から製作、絵付け、釉掛け、焼成後の仕上げと工程の多いプログラムのため、多くの利用者が参加しやすい。

単純で分かりやすい作業内容の提示を心掛けている。

「第6回 生(いのち)の芸術 フロール展」記念フリーカップ 1,000 個製作

「第3回 あいち障害者フライングディスク競技大会」記念メダル 600 個製作

「愛・地球博」公式グッズ製作・販売

#### ● クッキー作業（天白ワークス）

生地作りから焼成・袋詰めまでの全工程を1日で終わることができ、利用者にとって分かりやすいプログラム。各種団体から注文をいただいている。

#### ● ビーズ作業（メイトウ・ワークス／はまなす）

携帯ストラップ、グラスコード、キーホルダーなどのオリジナル製品を製作し、各地の福祉の店やバザーで販売。作業工程の構造化を図っている。

#### ● 縫製作業（メイトウ・ワークス）

各種ぬいぐるみを製作。各地の保育所や子育てサークルから注文を受ける。作業工程が幅広いため選択性が高く、多くの利用者が参加しやすい。

#### ● 下請作業（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす／レジデンス日進）

作業内容の明確な、利用者により分かりやすいプログラムとして全施設で提供している。自動車部品や水道管パーツから、インスタント飲料のセッティングまで種目は様々で、各施設複数種目を提供することで選択性に留意している。

#### ● 農耕サイト

日進市浅田町内の法人所有地で実施。「屋外での活動的な作業プログラム」であることが特徴で、レジデンス利用者を中心に野菜の栽培・販売を行っている。

敷地内に生ゴミ処理機1台を設置し、食事提供で発生する残飯等をその日のうちに処理機にかけ、堆肥を生成して活用している。

#### ● 木工サイト

農耕サイト敷地内の作業棟で実施。鍋敷や花台といった小物製品から隙間家具の受注製作まで行う。サイトでの成型を経て、メイトウ・ワークスで仕上げ・販売を担当。作業工程の確立を目指した。

モバイルモデルとしてのプログラム提供も視野に入れている。

● 製パンサイト

余分な添加物を一切加えず、国産小麦と菜種油を原料にしたこだわりのパンを製造。「安心でおいしい」パンとして、保育園や老人ホームでの給食メニューとしても好評。平成16年11月に、天白ワークスから日進市浅田町平子に移転し独立工房を構えた。

(2) 年間売上状況 (単位：円)

	メイトウ・ワークス	天白ワークス	はまなす	レジデンス日進	法人全体
陶芸	1,125,145	851,950			1,977,095
クッキー		973,130			973,130
ビーズ	77,539		8,100		85,639
縫製	1,503,082				1,503,082
製パン		2,803,976			2,803,976
木工	44,060				44,060
下請け	398,682	233,335	275,418	320,520	1,227,955
Kタオル	185,334				185,334
計	3,333,842	4,862,391	283,518	320,520	8,800,271

\* 参考：平成15年度

計	3,542,323	5,327,490	312,987	—	9,182,800
---	-----------	-----------	---------	---	-----------

(3) 利用者給与支給状況 (単位：円)

通所授産施設利用者を対象に、利用日数に応じて毎月支給。希望者には、特定作業への参加による出来高給の上乗せや、時給支給をしている。年2回賞与支給。

	基本給	一人当たりの平均月額	年間総額
メイトウ・ワークス	150円/日	2,725	1,512,500
天白ワークス	100円/日	2,221	1,116,000

2. レクリエーションプログラム・イベント

● 散歩プログラム (メイトウ・ワークス/天白ワークス/はまなす/レジデンス日進)

小グループでのリフレッシュ活動として、作業プログラムと並行して日常的に実施。公園での散策やドライブ、文化施設の利用など参加メンバーの好みに応じて企画。地域の方々との交流の機会ともなっている。

● バスハイク (メイトウ・ワークス/天白ワークス/はまなす/レジデンス日進)

全員参加の屋外活動。バスによる移動も利用者にとって大きな楽しみとなっている。天白ワークスは2グループに分けて実施した。グループによって、公共交通機関も利用。昼食も、弁当持参や外食など、企画によって異なる。

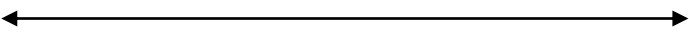


	メイトウ・ワークス		天白ワークス		はまなす		レジデンス日進	
	日	行先	日	行先	日	行先	日	行先
4月			23 30	リトルワールド	16	岡崎東公園		
5月	12	あいち健康の森						
9月			10 17	花フェスタ記念公園				
10月	27	リトルワールド						
11月					12	名古屋市科学館		
3月			11 18	名港水族館 愛知子どもの国			20	愛・地球博内覧会招待
計		2回		3回		2回		1回

● 一泊旅行（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす）

グループ別実施する宿泊行事。本人分参加費は利用者負担にて実施。

	メイトウ・ワークス		天白ワークス		はまなす	
	日	行先（参加者数）	日	行先（参加者数）	日	行先（参加者数）
5月	27 28	京都方面（15名） ・太秦映画村 ・嵐山				
10月			28 29	三重県方面（10名） 合歓の郷	7 8 28 29	三重県方面（14名） 合歓の郷 三重県方面（5名） 合歓の郷
12月	2 3	京都方面（16名） ・太秦映画村 ・嵐山				
3月			3 4	三重県方面（15名） 合歓の郷		
計		2回（31名）		2回（25名）		2回（19名）

● プール活動（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす）

	実施状況					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月
メイトウ・ワークス	 <p>障害者スポーツセンター内、日進運動公園内を利用。月別希望制により利用者の希望する参加時期、頻度に応じて実施した。また、個別活動目標を設定して継続的に取り組んだ。</p>					
天白ワークス	 <p>名東スポーツセンター・障害者スポーツセンター内を利用。利用者にゆとりをもって楽しんでもらえるように設定。</p>					
はまなす	 <p>障害者スポーツセンター内を利用。季節感を意識して全員を対象に実施した。</p>					

● グループハイク（メイトウ・ワークス／はまなす）

小グループによる屋外活動。利用者の選択した行先に基づいたグループ分けを行って実施。

	メイトウ・ワークス		はまなす	
	日	行先（参加者数）	日	行先（参加者数）
4月	21	東山動物園（2名）		
5月	20	名古屋港水族館（5名）	14	日本昭和村（5名）
6月	15	南知多ビーチランド（4名）	11	名古屋グランドボウル他（4名）
7月			16	豊橋総合動植物園（3名）
8月	4	サンビーチ日光川（1名） クアリゾート湯舟沢（2名）		
9月	22	長島スパーランド（3名）	10	東名ボウル他（5名）
11月	11	下呂温泉水明館（4名）		
12月	8	なばなの里（4名）		
2月	8	中川コロナ（5名）		
3月	8	日本昭和村（5名）	25	刈谷ハイウェイオアシス（3名）
	30	アクア・トト岐阜（1名）		

● クラブ活動（メイトウ・ワークス／はまなす／レジデンス日進）

<メイトウ・ワークス>

利用者の選択によるグループ活動を毎週金曜日の午後に定期的に実施。ボランティアの活用により個別対応に留意した。

グループ	利用者数	活動内容
フットベースボール	8名	障害者スポーツセンター体育室にて技術練習・試合
音楽・ダンス	10名	ワークス内にて音楽療法講師を招いて実施
創作	8名	ワークス内にて描画を中心に実施
ウォーキング	11名	名東スポーツセンター ウォーキングコースを利用

<はまなす>

希望利用者を対象に、スポーツ企画や図書館利用を行った。

グループ	利用者数	頻度
スポーツ	10名程度	毎週金曜日午後
名東図書館	5名程度	隔週木曜日
おもちゃ図書館	5名程度	月1回開催日

<レジデンス日進>

希望利用者を対象に、音楽療法講師を招いて、毎月第4金曜日午後に音楽プログラムを実施。

● 外部団体等の公演（メイトウ・ワークス／はまなす）

地域サークル等の公演を実施。事前打ち合わせを通して、利用者参加型の内容を目指した。季節行事も併せて行った。

<メイトウ・ワークス>

団体名	実施日	内容
天白りばーばんど	4/16	オリジナル曲、リクエスト曲の演奏
ポケットの会	7/7・12/24	絵本、歌、ペープサートなど
めいとう朗読グループ	9/3・2/3	絵本、歌、ペープサートなど
ゆうなの木	10/8	童謡を中心としたコーラス
その他	年6回	絵本などの読み聞かせ

<はまなす>

企画	実施日	内容
音楽	月1回	歌・演奏・ダンス
読み聞かせ	〃	絵本などの読み聞かせ

● 家族交流会（天白ワークス／はまなす）

利用者・家族・ボランティア・職員の交流を目的として実施。

5月28日（金）天白ワークス : 滋賀県長浜 黒壁スクエア

1月14日（金）はまなす（合同新年会）：南知多



- フットベースボール大会（メイトウ・ワークス／はまなす）  
11月4日（木）県福祉協会および名古屋市の主催する大会に参加（鶴舞公園陸上競技場）。競技を通して施設間・利用者間の交流を図ることができた。
  
- 年末パーティー（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす）  
利用者の忘年会行事として実施（12/27）。ゲームやカラオケ、会食を行う。天白ワークスは、日頃ご支援いただいているボランティアの皆さんへの感謝行事として、交流パーティーを行った（12/8）。
  
- 成人式（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす）  
該当者に合わせて、新成人のお祝い会を各施設で行っている。  
1月11日（火）メイトウ・ワークス：新成人1名
  
- 自動車図書館（メイトウ・ワークス／はまなす）  
西自動車図書館の巡回を利用。メイトウ・ワークスが地域の駐車ポイントになっており、地域交流の機会ともなっている。年6回実施。

## ナイトケア事業

現在、名東福祉会はナイトケア事業として、入所更生施設 1 ケ所とグループホーム 2 ケ所を運営しています。活動的な日中プログラムとは対照的に、落ち着いた生活環境の設定に重点を置いています。

入所施設は 10 名前後のユニット単位で支援が行われ、利用者ひとりひとりの生活リズムを大切にしています。

グループホームは、男女別に設置しています。

## 1. 生活モデル

利用者ひとりひとりの生活リズムの安定を図るため、生活モデルを設定した。入所施設においても毎日、個別の入浴機会を設けて快適さを求めた。

時間	レジデンス日進	こいけホーム	天白ホーム
6:00	起床・朝食	起床・朝食 出勤・通所	起床・朝食 通所
9:00	日中活動へ出発 (法人施設・ サービスサイト等)		
12:00	帰着・昼食 日中活動へ出発		
15:00	帰着	帰着	帰着
18:00	入浴 夕食 入浴	夕食 入浴・洗濯	入浴・洗濯 夕食 入浴・洗濯
22:00	就寝	就寝	就寝

## 2. 各種支援サービス等

### (1) ユニット単位の支援

4名(グループホーム)～10名(レジデンス日進)のグループ単位での生活支援を行うことで、個別ニーズの充足に留意した。

### (2) 金銭等の管理

レジデンス日進利用者の財産管理を、より適正・確実に行うことができるよう、「施設利用者の年金等取扱要領」を定めた。グループホームについては、個別出納帳により職員が管理し、併せて所長・家族の収支確認を行っている。

### (3) 健康管理

医療機関への通院に配慮し、必要に応じて個別に付き添い支援を行った。

### (4) その他

七夕、クリスマス会などの季節行事を各事業所にて行った。グループホームについては、利用者の誕生日会も随時行った。

## 地域生活支援事業

名東福祉会は発足当初から、地域に在住する障害をもった方々の支援を視野に入れた活動を行ってきました。平成 14 年度からは名古屋市の委託を受け、メイトウ・ワークス内に「名東区障害者地域生活支援センター」を設置しています。

支援費制度の浸透とともに多様なサービスが地域に展開しています。支援センターでは、相談に訪れる方々の様々なニーズをこれらのサービスに結びつけ、生活支援のネットワークを広げています。

今年度の新規相談者は42名。昨年度より新規受付け人数は減少したが、継続相談者も含めると、延べ81名の相談を受けた。幅広い年齢層からの相談があったが、障害別には知的障害に偏っていた。業務内容としては、ヘルパー利用の方法、事業所の紹介、円滑な導入のためのケアプラン作成、トラブルの仲介など支援費の居宅介護に係る情報提供が最も多く、次いで日中活動や余暇活動の支援、家族への育児・介護負担の軽減などを含めた相談が多かった。また、千種区・名東区2区合同で支援費関係連絡会も引き続き開催し、地域福祉のネットワーク作りと支援費制度サービスの利用促進に努めた。

1. 新規相談者の状況

(1) 居所

	名古屋市内				計	愛知県内		愛知県外		不詳	計
	名東区	千種区	守山区	その他		尾張旭	西春				
人数	35		2	2	39	2	1				42

(2) 障害種別

	児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
	～6歳	～12歳	～15歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	60歳以上		
知的障害	5	4		2	3		6	2	1		23
身体障害					1	1		3	2	1	8
精神障害										1	1
重複障害	知的・身体	3	2	1	1	2	1				10
	知的・精神										0
	身体・精神										0
手帳なし・不詳											0
小計	8	6	1	3	6	2	6	5	3	2	42
合計	18				22					2	42

(3) 性別・年齢

	児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
	～6歳	～12歳	～15歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	60歳以上		
男	6	3	1	1	4	2	4	5			26
女	2	3		2	2		2		3	2	16
不詳											0
小計	8	6	1	3	6	2	6	5	3	2	42

(4)相談内容(複数カウント)

	児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上		
居宅介護(注 <sup>1</sup> )	8	5	1		3	1	1	2	1		22
実習依頼											0
日中活動先(注 <sup>2</sup> )	1	1		3	4	1	4	2			16
就労相談					2	2	3				7
余暇支援	1	2			1	1		1			6
グループホーム							2				2
入所施設紹介											0
療育相談		1									1
その他(注 <sup>3</sup> )							1	3	3	2	9
計	10	9	1	3	10	5	11	8	4	2	63

(注<sup>1</sup>)居宅介護 ホームヘルプサービス全般(身体介護、移動介護、家事援助)

(注<sup>2</sup>)日中活動先高等学校卒業後の進路相談を始め、就学児童の長期休暇中の生活支援も含む

(注<sup>3</sup>)その他 ホームヘルプを含まない生活全般の支援、短期入所、障害者手帳のない方への生活相談、配食サービス等

2. 相談受付の状況(新規相談も含む)

(1)障害種別

	児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
	～6歳	～12歳	～15歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	60歳以上		
知的障害	9	5	3	8	9	6	7	2	1		50
身体障害					1		2	4	3	1	11
精神障害										1	1
重複障害	知的・身体	3	4	1	4	2	1		1		16
	知的・精神						1				1
	身体・精神										0
手帳なし・不詳				1			1				2
小計	12	9	4	13	12	8	10	7	4	2	81
合計	38				41					2	81

(3)性別・年齢

	児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
	～6歳	～12歳	～15歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	60歳以上		
男	8	7	3	6	9	6	7	5	2		53
女	4	2	1	7	3	2	3	2	2	2	28
不詳											0
小計	12	9	4	13	12	8	10	7	4	2	81

(3)相談内容(複数カウント)

		児童(幼児～学齢期)				成人					不詳	計
		0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上		
居宅介護	ヘルパー	11	9	3	5	5	4	3	3	2		45
	デイ		4			3	1		2			10
	ショート		1				2					3
生活基盤の安定	生活保護									1		1
	進路	1			4							5
	就労				1	2	1	2				6
	日中活動		1		3	7	2	5	2			20
	余暇活動	2				2	2	3				9
	家族関係	4			3	3	3	3	2		1	19
	医療機関								1	2		3
	権利擁護							1				1
	住居					1	2	3		2		8
	療育	2		1								3
困難ケース	1			1	1	1	1	1	1		6	
その他(注)		2			1	1	3	2	3	1	13	
計		21	17	4	17	25	19	24	13	10	2	152

(注)その他 障害者手帳のない方への生活相談、自立支援配食サービスなど

千種区・名東区支援費関連事業者連絡会

参加者：居宅支援事業所、施設支援事業所、育成会、身障協会、相談員、行政

開催日	場所	内容
H16.7.28	名東区役所講堂	第1回分科会（居宅支援事業所）、活動報告、事例報告、討議
H16.11.17	千種区役所会議室	第2回分科会（施設関係）、利用状況報告、事例報告、討議
H17.3.3	名東区役所講堂	全体会、17年度予定（事業所向け研修・事業所展）、討議

研修会・講演

開催日	場所	名称	内容
H16.5.27	障害者スポーツセンター	名東区手をつなぐ育成会例会	支援センター業務について
H16.7.16	名東区役所訓練室	名東区手をつなぐ育成会懇談会	交通局・警察署への協力依頼
H16.7.26	レジデンス日進地域交流センター	社福）名東福祉会後援会総会后援会	支援センター業務について
H16.12.15	中区在宅サービスセンター	平成16年度指導員・生活支援員等研修（身障）	地域の中でのネットワークづくり 情報交換
H17.1.27	豊田産業文化センター小ホール	障害者の消費生活トラブルと支援に関するシンポジウム	基調講演とシンポジウム
H17.2.25	メイトウ・ワークス	あけぼの学園・天白区ボランティア施設見学会	名東区障害者支援センターの業務について
H17.3.8～10	戸山サンライズ	平成16年度障害者保健福祉サービスコーディネーション研修会	知的障害者コースアドバンストコース・ライフステージを見据えた支援について
H17.3.18	名身連福祉センター	平成16年度現況説明会	名身連第2ワークス活動報告 名身連第2デイサービス活動報告



支援センター関連会議

平成 16 年度障害者地域生活支援センター連絡会

主催：名古屋市健康福祉局障害福祉部

回数	開催日	内容
第 1 回	H16.4.26	地域生活支援センター運営事業実施要綱・要領改正 自立支援配食サービス事業
第 2 回	H16.7.13	障害者地域生活支援特区、支援費・介護保険制度 障害者雇用支援センターの事業紹介
第 3 回	H16.9.30	支援費制度（居宅）の改正等について 名古屋市精神保健福祉センターの事業概要説明
第 4 回	H16.11.15	障害児教育の現況について、グランドデザイン案 支援費制度ヘルパー事業所向け研修について
第 5 回	H17.1.31	成年後見制度について、障害者自立支援給付法（仮称）について 支援費制度ヘルパー事業所向け研修について
第 6 回	H17.3.17	17 年度障害者福祉関係予算について、行動援護について

東ブロック会 8/3 困難ケースの事例検討、情報交換  
2/23 千種・名東区支援費関係事業者連絡会報告、コーディネーター  
活動状況  
情報交換

愛知県知的障害者福祉協会・地域療育等支援事業部会

12.17 国の動向（介護保険移行、グランドデザイン、国予算）  
県・市の次年度方向について  
「コーディネーター事業」「3 事業」

サービス調整会議 4/24、4/28、5/24、8/3、8/19、9/30、10/1、1/13、3/23

## 各種委員会等

名東福祉会には、施設横断的な委員会が機能別に設けられており、利用者に提供するサービスの質の向上に努めています。

## 1. IEP委員会

### (1) 目的

IEPとはIndividualized Empowerment Planの略で、本人の自己決定を尊重した個別支援（エンパワーメント）計画である。IEP委員会は各事業所における支援内容の妥当性のチェックやツールの標準化を行う。

### (2) 構成

各施設職員1名（各所長が兼務）

### (3) 活動報告

従来は、ツールの標準化や計画の立案、記入のあり方を検討する段階であったが、今後は、計画内容の共有や検証、達成度評価に重点を移していく。

平成16年度末における法人施設全利用者の個別支援計画の内容を、領域別に分類した結果、次のような結果が得られた（単位％）。

領域	メイトウ・ワークス	天白ワークス	はまなす	レジデンス日進	法人全体
①作業プログラム	22	40	14	40	30
②レクリエーション	16	14	31	1	15
③その他のプログラム	13	15	12	1	11
④生活動作支援・介助	5	1	6	18	6
⑤健康	25	12	12	12	16
⑥食事	5	0	1	0	2
⑦通所・参加	4	8	6	4	6
⑧マナー・ルール	2	1	0	0	1
⑨行動障害	7	7	14	20	10
⑩家族支援	1	2	4	4	3
合計	100	100	100	100	100

法人全体で見ると、プログラム（①～③）の占める割合が50%を越えており、中でも作業（①）が主たる提供プログラムとなっていることが分かる。行動障害（⑨）の数字など低いよう見えるが、自閉症者に対する構造化など、作業を通じて行っていることが多い。また、作業の意味づけは利用者個々によって多様であることが、支援計画から読み取ることができる。この意味で、作業プログラムは単に「仕事を提供する」ことに留まらず、複合的な支援要素を含んでいると言える。

健康（⑤）の増進は、当法人が積極的に取り組むべき領域であるが、支援計画中に占める割合はまだ低い。関連領域である食事（⑥）と併せて、今後の重要な課題であると言える。

施設単位で見ると、

#### 【メイトウ・ワークス】

健康・食事に関する内容が比較的多く（30%）、プログラムにも反映されている。

#### 【天白ワークス】

特に作業に関する内容が多い（40%）。「法人資源の活用」という視点が見られる。

#### 【はまなす】

作業プログラムのウエートが低い（14%）。レクリエーションも含め、「日中活動」という括りで捉えた記述が目立つ。

#### 【レジデンス日進】

作業プログラム（40%）の複数提示による好みの調査・把握と、日常生活上の介助（④・18%）を安全に行うことが2本柱となっている。

といった傾向が認められる。

それぞれに施設利用者の状況を反映しており、特にレジデンス日進については、開所後の間もない施設故の内容となっている。

今後は、

- ・ 計画内容（領域）の標準化：原則として立案すべき領域の設定
- ・ 標準以外の領域設定
- ・ 計画内容の共有方法の検討：施設単位／法人単位／他資源との連携

を目指していきたい。

## 2. 給食委員会

### （1）目的

利用者の健康管理・安全衛生管理の観点から給食サービスの内容をチェックし、委託業者との連携を密にし、法人全体の質の向上を図る。

### （2）構成

各施設職員1名（法人栄養士を含む）

### （3）活動報告

毎月1回委員会を開催

（5/11・6/8・7/13・8/10・9/14・10/12・11/9・12/14・1/18・2/9・3/9）

- ・ 各月検食表のチェック
- ・ 委託業者との折衝、交渉
- ・ 各施設での提供方法検討
- ・ 食器の変更（3/1～メイトウ・ワークス）
- ・ 利用者の個別対応

## 3. 強度行動障害タスクフォース

### （1）目的

自閉症者等、強度行動障害を持つ利用者に対し、安心した地域生活をおくれるよう生活環境の提言、支援者の育成を目指す。

## (2) 方法

はまなすを、支援プログラム構築・検討施設と位置づけ、TEACCH プログラムに基づいた空間とスケジュールの設定を行う。各利用者に対応した支援プログラムの検討・提供により、支援方法の蓄積と地域へのサービス提供を行う。

## (3) 活動報告

### ● はまなす実施

平成 16 年 5 月に自閉症者対応の作業室をはまなす内に設置し、パーテーション等による個別の支援空間を設定。視覚的刺激的の低減を目指すと同時に、個別スケジュールを設定したサービス提供を行った。

平成 16 年 1 月～4 月 応接室および和室を利用した個別支援 1 名

平成 16 年 5 月～ 施設内改装による新作業室設置 個別支援 3 名

### ● 外部資源活用

メイトワークスを利用した個別支援 1 名 (5 月中 2 週間)

## 4. グループホームミーティング

### (1) 目的

2 箇所のグループホームの運営状況や課題を法人単位で把握・検討することにより、サービス内容の標準化や他施設との連携強化を目指す。

### (2) 構成

各グループホーム管理者および世話人

### (3) 活動報告

毎月 1 回第 4 金曜日 (原則) にミーティングを開催

11/12 運営上の原則確認・利用者個別課題の共有

11/26 「食事提供」について

12/17 自宅帰宅に関する確認・「掃除」について

1/28 世話人の勤務体制の確認・「入浴」について

3/2 「緊急時対応」について：火災・地震・事故・疾病

3/25 「緊急時対応」について：警報等発令

生活上の領域別に、課題の把握と改善提案を行う。8 名のホーム利用者のうち 5 名が法人内の施設に通所しており、連携した支援が強化された。

東海地震の発生に関するテーマは複数回に渡って設定し、本人や家族も交えた防災懇談会の開催につながった。

今後も、支援現場のニーズに即したテーマ設定により、グループホームの抱える課題を法人全体で考え、サポートできる体制を目指したい。

## 5. リスクマネージメント

### (1) 目的

利用者個々のニーズに最大限応える上で、サービス提供上のリスク管理は必要不可欠であるという認識に立ち、法人単位でのリスクマネージメントを実施。リスクマネージャーを1名設置している。

リスクマネージャーは全職員から「ヒヤリ・ハット・事故報告書」を収集し、支援現場でのリスクの把握・法人全体での共有・分析とリスク軽減に努めている。単に事故防止に留まらず、安全で質の高いサービス提供を目指した職員教育や、苦情解決・サービス評価などの取り組みと連動したシステム作りが必要である。

### (2) 構成

リスクマネージャー 1名

### (3) 活動報告

平成16年度中に提出された「ヒヤリ・ハット・事故報告書」の件数は、

ヒヤリ（危なかったこと）	30件
ハット（思いついたこと）	9件
事故報告	70件

となっている。「1つの大きな事故の前に29の小さな事故と300のヒヤリハットがある」というハインリッヒの法則に基づいて考えると、法人内には潜在的なヒヤリハットがかなり存在しているはずである。効果的なリスクマネージメントには、より多くの報告によるデータ収集が不可欠でもあり、今後一層、職員全体の意識化を図っていかねばならない。

#### ● 報告内容

報告を内容別に見ると、

	破損	怪我	他害	車	誤薬	無断外出	その他
%	29	24	13	10	8	4	12

という内訳となる。「怪我」と「他害」、「破損」と「車」は重複している部分もある。

「破損」と「怪我」で50%以上を占めていることが目立つが、環境整備や利用者情報の共有により防ぐことができるケースも少なくないことが、報告書から伺うことができる。「他害」に限られた利用者中心となっていることも含めて、現時点での主要課題と言える。

また、それぞれ1割強を占める「車」「誤薬」も要注意領域と言える。各施設、日常的に外出プログラムを提供しているが、運転上の小さなハプニングは予想以上に利用者の不安を招くばかりか、人命に関わる事故に発展する可能性もある。また、服薬支援は施設サービスの主要業務のひとつであり、健康に直接関わるデリケートな領域である。

幸い、システム改善が施されて服薬に関するミスは減少したが、繰り返しチェックしていくことが肝要と思われる。

● ハイリスクな時間帯

時間帯という視点から見ると、ヒヤリや事故は「散歩」「自由（休憩）」の際に多いことが分かる。

	散歩	自由(休憩)	服薬	引継ぎ	作業	その他
%	27	20	13	9	9	22

「散歩」については、屋外での活動的な内容となることが多く、自然とリスクが高くなるという性格のプログラムである。ハイリスク＝活動の制限・縮小という短絡的な発想は持つべきではないが、日常的に提供しているプログラムとして、留意していきたい。同様に、「自由」時間についても、「作業」時などと比べ、利用者の居場所や動きが不規則であることが大きな要因と考えられる。何をすることが明確でないことに起因するトラブルも想像され、個別の検討が必要と言える。

数的には目立つほどではないが、「(職員の) 引継ぎ」時も気になる場所である。リスク軽減のための動きが危険を招いている本末転倒ということにもなりかねない。各現場の状況に合わせた工夫が必要か。

● 支援現場での対応のあり方

報告された内容について、各施設でとった対応の内訳が下の表である。

対 応	%
支援現場内で報告し、職員で対応を確認・周知した	44
具体的に環境を整備した（マニュアルの作成・掲示・物品移動）	33
特に全体での対応をとらなかった	23

職員間で報告し、情報を共有することで、同じような事故を重ねて起こすことを防いだり、重大な怪我に至ることを予防する取り組みが一番多かった。具体的に目に見える形で対応したものは、意識化を呼びかける掲示や物品移動がほとんどで、マニュアル面の弱さが今後の課題として残った。

● 「ヒヤリハットニュース」

報告が一方的なものとならないよう、リスクマネージャーとしてのコメントや改善要請を各現場に対して行ってきたが、併せて6月より月1回のペースで「ヒヤリハットニュース」を発行した。毎月の報告書提出状況や職員からの提案、各現場での対応策の紹介を内容としたもので、これにより、職員のリスクマネジメントに対する一層の意識付けを図った。

● 今後に向けて

マネージメントする立場からの今後の優先課題は、「情報の共有」である。ひとつのヒヤリ・ハット・事故データを、個人レベルに留めないのはもちろんのこと、支援現場内に留まらず、法人全体に周知することで同様のミスを防いだり、解決策を相互に検討し合えるような環境整備を行っていききたい。ミスを隠すのではなく、繰り返さないために積極的に情報提供するような発想を共通認識としなければ、リスクマネージメントは成立しない。前述のマニュアル面の強化についても、法人内での汎用性が高いことが望ましいのは言うまでもない。

サービスの質を向上させるためのポジティブなシステム作りを目指したい。

## 6. 機関誌「WORKS」編集部

利用者・職員・後援会員・関係団体等に配布している法人機関誌の編集・発行を担当している。福祉業界の時事レポートから法人内のトピックスまで、法人関係者からの寄稿を募っている。

No.	発行月	テーマ
97	7月	名東福祉会のナイトケア事業本格スタート 「レジデンス日進の半年間」「地域福祉時代の入所施設の役割」
98	10月	リスク管理と生活の質 「リスクをマネージメントする」「『95%の安全管理』の大切さ」
99	1月	新年のあいさつ（グランドデザイン案のポイント） 地域生活を支える（地域生活支援センターからの活動レポート）



## 地域交流事業

名東福社会の運営する各施設は、地域住民の皆さんにとっても価値の高い存在であることを目指しています。ボランティアの方々に留まらず、誰もが気軽に利用できる地域センター的な役割を担っていきたいと考えています。

## 1. イベント

### (1) 法人講演会の開催

2月20日(日)日進市民会館小ホールにて、「講演と地域福祉を考えるシンポジウム」を日進市と共催。会館内で、施設製品の販売やバザーも行った。

#### ● 講演

「やさしい社会、つめたい社会」

講師： 渡辺 哲雄 氏（日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員）

#### ● シンポジウム

「豊かな生活を目指して、地域福祉を考える」

シンポジスト： 渡辺 哲雄 氏

梅村 光俊 氏（日進市生涯支援部福祉推進課長）

長谷川了示 氏（日進市障害者団体連絡協議会代表）

コーディネーター：加藤奈々枝（名東福祉会会長）

#### ● 販売状況

	売上額（単位：円）
<b>【施設製品】</b>	70,390
メイトウ・ワークス	16,510
天白ワークス	51,980
はまなす	1,900
<b>【家族会売上】</b>	191,490
メイトウ・ワークス	52,990
天白ワークス	21,580
はまなす	22,500
レジデンス日進	94,420
喫茶部門	144,800
寄付金	10,000
合計	416,680

### (2) レジデンス日進での地域イベント

開所して間もないレジデンス日進にとって、地域とのつながりを広げて行くことは重要課題のひとつと言える。16年度は、地域ボランティア主催による夏まつり（8/28）や地元地区のお囃子公演（2/20）などを行い、利用者も楽しむことができた。

## 2. ボランティア受け入れ状況

利用者ひとりひとりのニーズに応じたサービスの提供を進めるため、地域ボランティアの受け入れを積極的に行った。より多くの方々に来所していただくことは、利用者との関わりは基より、地域に開かれた施設であるために必要不可欠であると考えている。

天白ワークスには、月 1 回、ヘアカットのボランティアが来所している。

	活動内容	年間延人数
メイトウ・ワークス	作業やレクリエーション、イベントのサポート	426
天白ワークス	〃	383
はまなす	〃	131
レジデンス日進	ユニット内の清掃・イベントのサポート	400

### 3. 陶芸教室（メイトウ・ワークス／天白ワークス）

#### ● 出張陶芸教室

名古屋市厚生院（月 1 回）、特別養護老人ホーム「極楽園」（4・5 月）へ職員が利用者とともに出張し、陶芸を通じて高齢者との交流を図った。

#### ● 地域陶芸教室

地域の子ども会や保育園などが施設内の陶芸室を利用。定期利用しているグループもある。

### 4. その他

#### ● 「ハローネットワーク」の発行（メイトウ・ワークス）

ボランティア情報誌として隔月 350 部を発行。地域ボランティアの募集・法人施設の活動の紹介を目的としており、町内への回覧・地域店舗での掲示・来所ボランティアへの送付を行った。

#### ● 施設の貸し出し（メイトウ・ワークス）

地域の町内会や子ども会、高齢者グループを中心に、土日祝日や夜間に施設を開放。年間延 50 団体ほどが利用した。

#### ● 実習学生等の受け入れ（メイトウ・ワークス／天白ワークス／はまなす）

各施設、中学校からの職場体験実習や大学からの介護体験、専門学校からの現場実習の受け入れを随時行った。